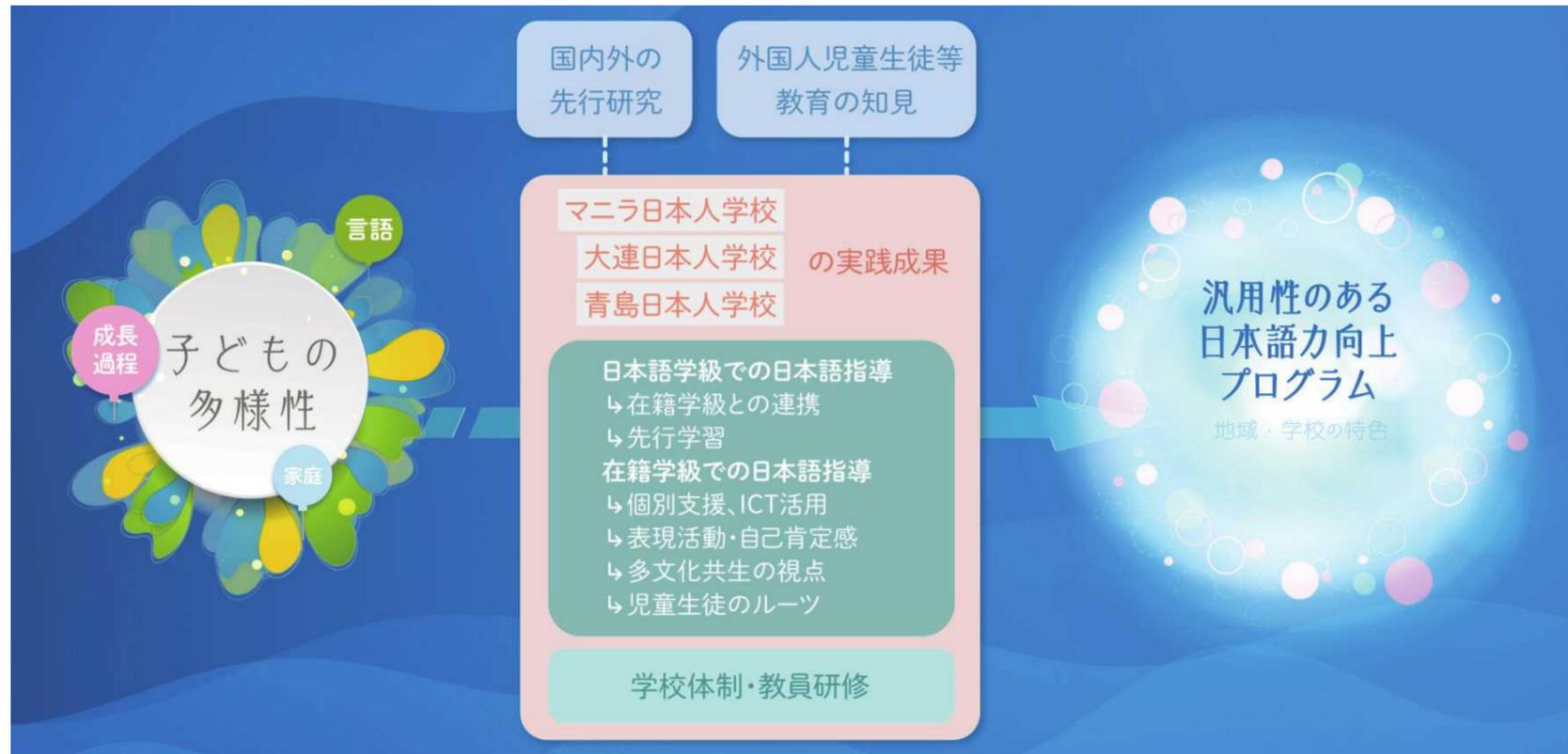




AG5テーマ2
汎用性のある
日本語力向上プログラム

テーマ2「日本人学校におけるバイリンガル・バイカルチュラル人材育成のためのプログラム開発とそのための教員研修のプログラム開発」により開発した「汎用性のある日本語力向上プログラム」を紹介します。



(▶ 1 : 11)

子どもの多様性を生かしながら日本語力が向上できる総合学習型の日本語指導として、「汎用性のある日本語力向上プログラム」をマニラ日本人学校、大連日本人学校、青島日本人学校で開発しました。そのプログラムのポイントを3つ示しました。

汎用性のある日本語力向上プログラムのポイント

- 1 日本語力向上のための持続可能な学校体制
- 2 児童生徒の実態把握と評価・成長の記録
- 3 効果的な日本語指導の方法

(▶ 1 : 23)

3つのポイントには、次の内容を含めました。

Point 1

- A 学校全体での体系的な取り組み
- B 多文化共生の学校・学級づくり
- C 日本語学級(取り出し授業・課外指導)の設置・入級システム
- D 日本語指導担当教師の学校組織への位置付け
- E 校内研修との関連
- F 保護者との情報共有、連携・協力

① 日本語力向上のための持続可能な学校体制

Point 2

- A 個別の指導計画
- B 個別の指導記録
- C アンケート
- D 評価

② 児童生徒の実態把握と評価・成長の記録

Point 3

- A 日本語基礎・技能別日本語の指導
- B 日本語と教科の統合学習
 - A 日本語学級と在籍学級との連携
 - B 日本語学級での先行学習
 - C 在籍学級での日本語支援
- C バイカルチュラルの視点を取り入れた授業
 - A 児童生徒のルーツのある国からきっかけを作る
 - B 差異や共通点から思考を深める
 - C 他校との交流

③ 効果的な日本語指導の方法

(▶ 1 : 55)

(▶ 2 : 34)

(▶ 2 : 56)

以下、各校の具体例を紹介します。(動画と合わせてご覧ください。)

1 日本語力向上のための持続可能な学校体制

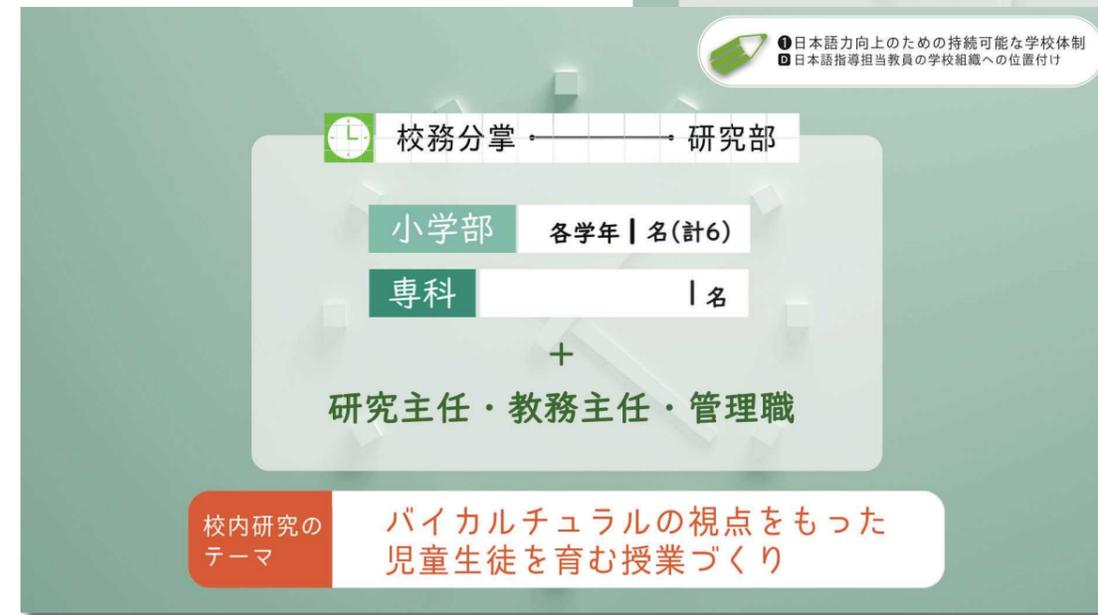
マニラ日本人学校

C 日本語学級の設置・入級システム



(▶ 4 : 37)

D 日本語指導担当教師の学校組織への位置付け



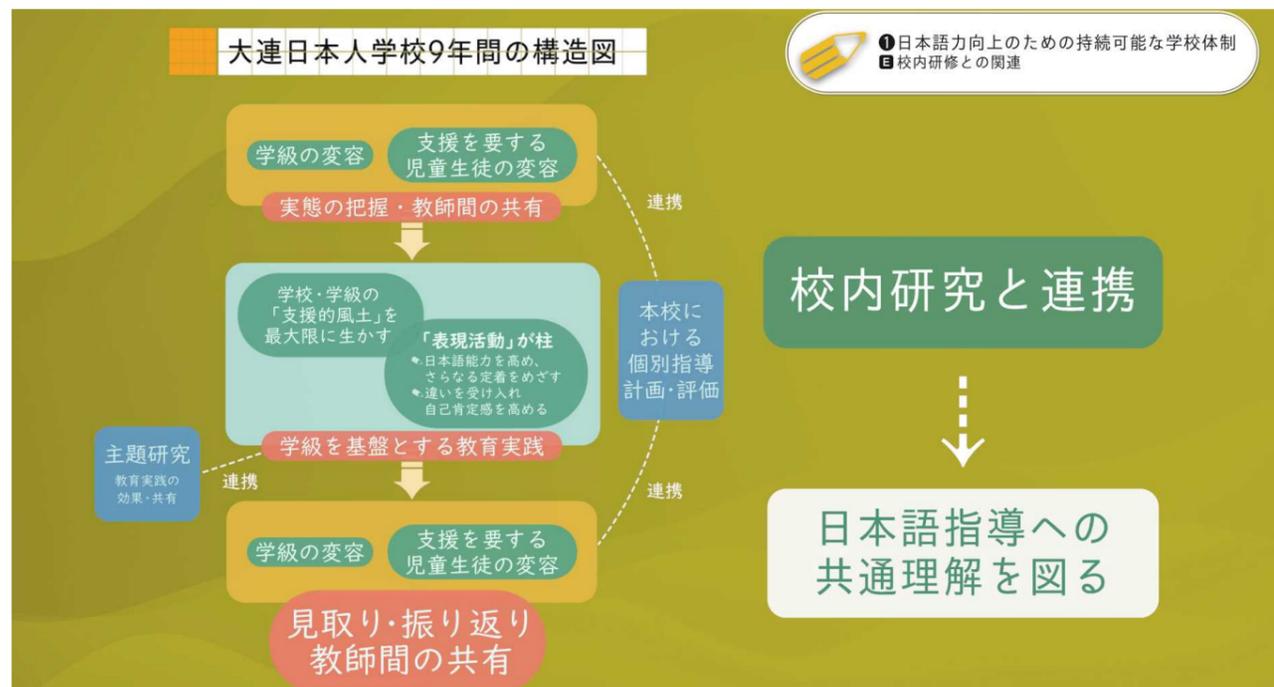
(▶ 5 : 14)

(▶ 5 : 46)

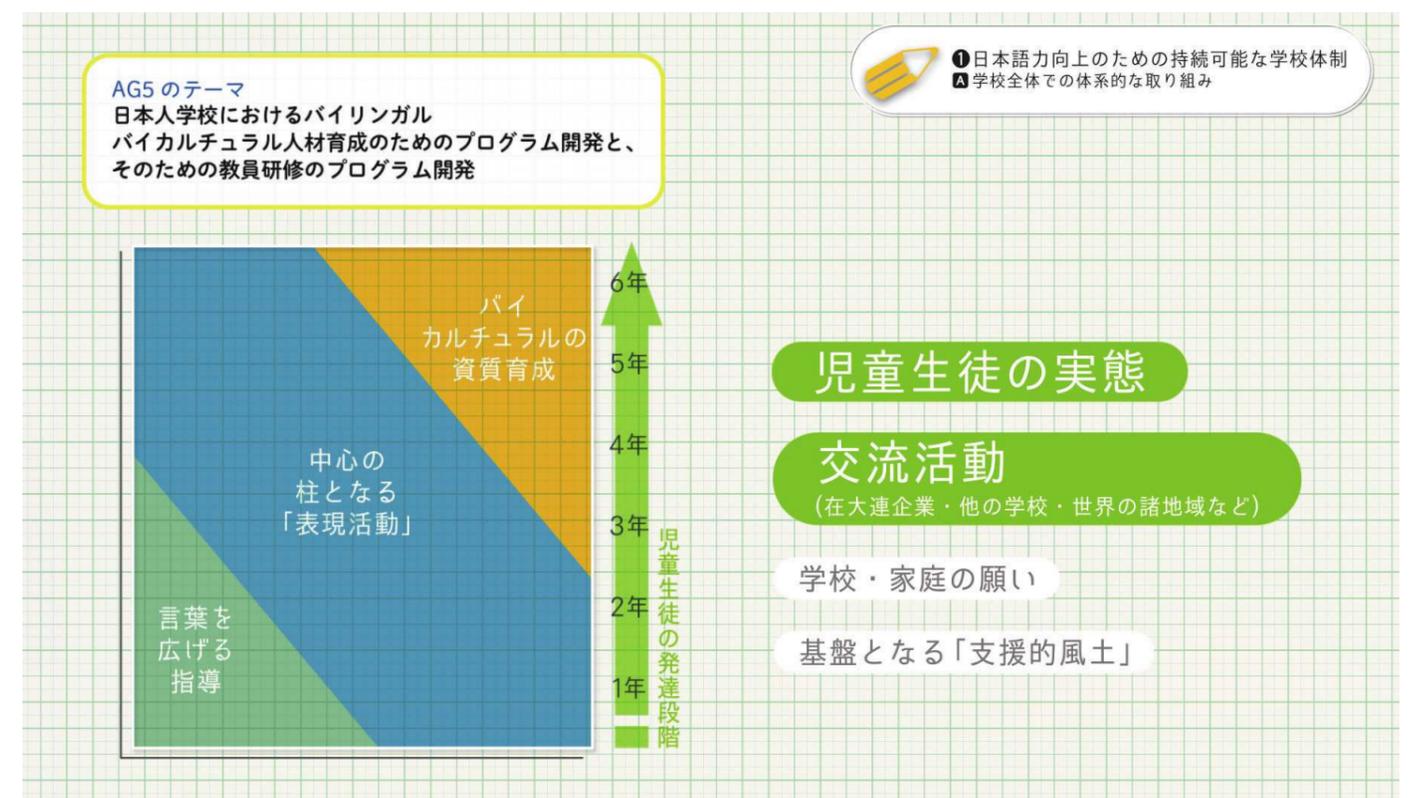
大連日本人学校

ABE 9年間を見通した教育実践

日本語学級がないため学級での教育実践を基盤に活動に取り組む

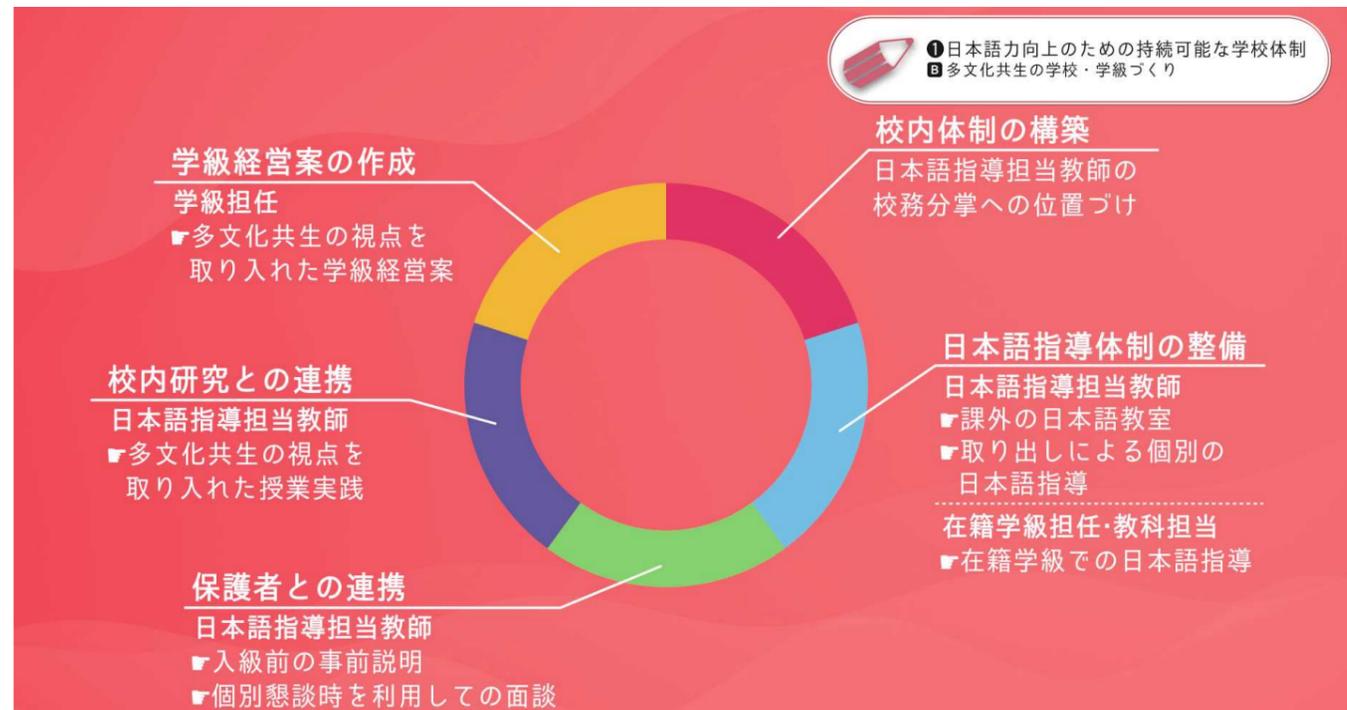


(▶ 11 : 09)

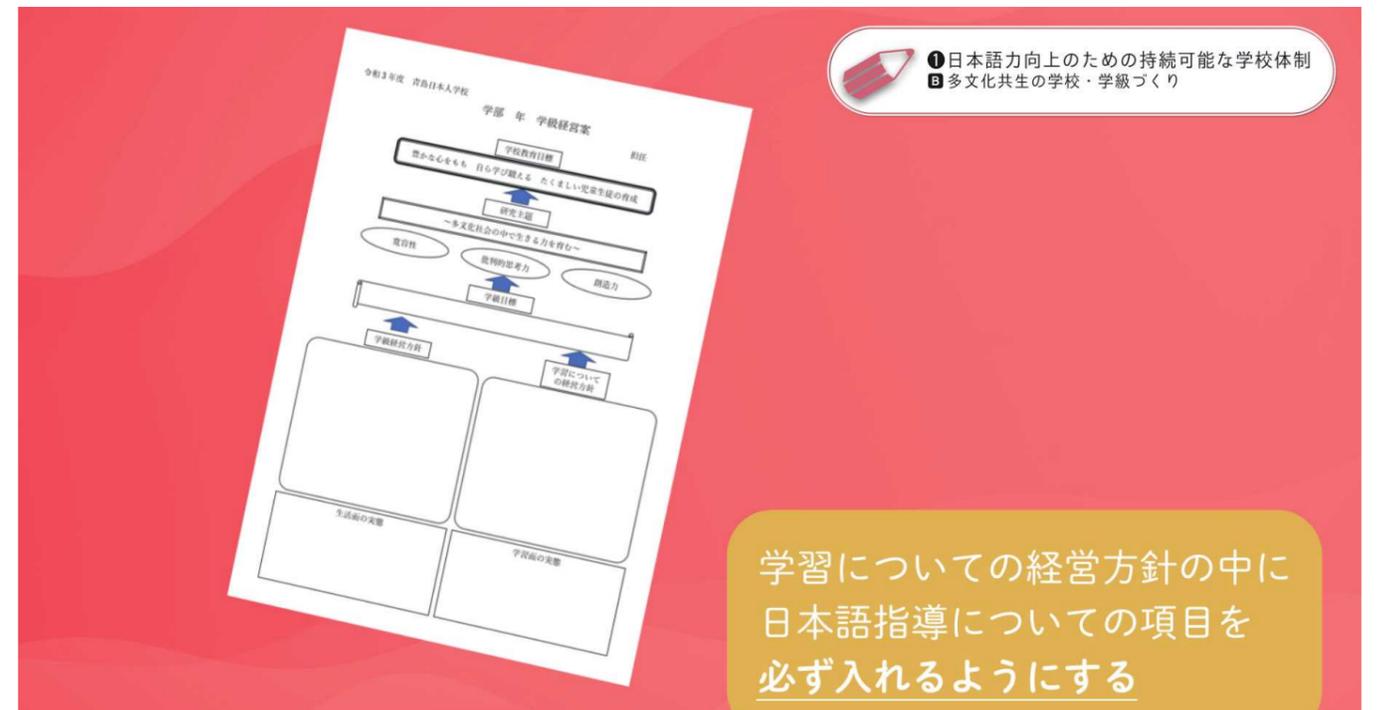


(▶ 10 : 31)

B 多文化共生の学校・学級づくり



▶ 16 : 12



▶ 17 : 12

2 児童生徒の実態把握と評価・成長の記録

D 評価（教師の指導の評価）

児童の様子	<p>《日本語学級での様子》</p> <p>① 児童の様子を記録（日本語学級）</p> <p>ことで、児童も「ほくはボトスを調べよう。」「サボテンにしよう。」と意欲を高めていた。 ○まずは、観察の仕方の練習として、オクラの写真を使って観察をした。観察ポイントを確認し、モデル文も使いながら、ノートに自分でまとめることができた。（色・形・数） ○グループ活動の中で、葉の枚数を「4本」「4匹」等という子もいたが、「ここは4枚だよ」と友達同士で確かめ合い、学び合うことができた。 △長さや大きさについては、オクラの写真に長さが分かるものが写っていないため、書けなかった。</p> <p>【2時間目】 ○グループ内で一人一人書いた内容を確認し、読む練習を行った。ほとんどの子どもたちがほぼ書けていたが、「におい」を「によい」と書いていたり、字の間違い等があったりした。読みのレベルもそれぞれで、抱い読みの子、ひっかりながらも何とか読める子、すらすら読める子とさまざまである。</p> <p>《在籍学級での様子》</p> <p>○在籍児童 ① 児童の様子を記録（在籍学級） ○日本語学級で発表内容の確認と練習を行っていたことで、自信をもって発表できたようだった。 △どのページに書いたのなかなか探せずに、発表できない日本語学級の児童もいた。</p>
	<p>○モデル文があったことで、書き出しがスムーズであった。色や形もいくつか表現が出てきたので、友達同士で学び合う場をつくることができた。</p>

▶ 6 : 16

学習活動案・日本語支援に	<p>【2時間目】 ○グループ内で一人一人書いた内容を確認し、読む練習を行った。ほとんどの子どもたちがほぼ書けていたが、「におい」を「によい」と書いていたり、字の間違い等があったりした。読みのレベルもそれぞれで、抱い読みの子、ひっかりながらも何とか読める子、すらすら読める子とさまざまである。</p> <p>《在籍学級での様子》</p> <p>○在籍児童 ① 児童の様子を記録（在籍学級） ○日本語学級で発表内容の確認と練習を行っていたことで、自信をもって発表できたようだった。 △どのページに書いたのなかなか探せずに、発表できない日本語学級の児童もいた。</p>
	<p>○モデル文があったことで、書き出しがスムーズであった。色や形もいくつか表現が出てきたので、友達同士で学び合う場をつくることができた。</p> <p>② 指導の分析…成果</p> <p>② 指導の分析…課題</p> <p>③ 具体策の検討</p>

▶ 6 : 27



▶ 6 : 07

▶ 6 : 37

大連日本人学校

ACD 3つの取組み（個別の指導計画・アンケート・評価）

学年 児童名 (イニシャル)	(児童の実態・障害の状況) ・日本語の読み書き、読解に課題がある。(中略)		② 児童生徒の実態把握と評価・成長の記録 A 個別の指導計画
長期目標 (学習) 日本語の読み書き・読解が確実にできるようにする (生活)	検査結果等 (日付)		
短期目標	指導の手立て・留意点	評価	
一学期 (学習) ○小学校で学ぶ漢字の読み書きに取り組み、中国語と区別をしっかりとつけつつ、確実に身につけるようにする (生活) ○	○ロイロノートを活用しての個別指導 ○授業中のごまめな指導 ○生活ノートを活用して、意識を高める	○学習において、大きな改善が見られる。努力が成果となっていることで、本人の意欲・自信につながっている。 ○読解に時間を要するため、テストなどでは自分や保護者が思うほどの結果につながっていない。読解のスピードアップが次の課題である。	
二学期 (学習) ○中学校で学ぶ漢字の読み書きに取り組み、確実に身につけるようにする。また、読書や書き取りにより、読解のスピードアップに取り組む。 (生活) ○	○	○	

本校の「個別の指導計画」

支援を要する児童生徒の能力・特性は「目標項目」での分類が難しい
↳ それぞれの子ども課題を具体的に把握・共有する必要性

(▶ 11 : 35)

JSL 評価参照のステージ		＜書く＞(文字・表記 + 作文力)		② 児童生徒の実態把握と評価・成長の記録 C アンケート
指導の段階	「個別の指導計画」のための学習目標項目例	○他技能との関係 ●指導のヒント		
1 初期指導 (前期)	a 筆記道具の持ち方や姿勢に注意して書く。(小学校低学年の場合) b 自ら経験したことを絵や単語(日本語・母語)で示す。 c 大きなマス目の中に文字を書く。(小学校低学年の場合) d 文字と音が対応することを理解する。(例: /a/と発音して平仮名の「あ」を書く)(小学校低学年の場合) e 自分の名前や普段よく使う単語を書く。 f いくつかの平仮名や、馴染みのある短い平仮名の語を書く。	○書きたいことを絵や文字で示そうとする。(特に小学校低学年の場合) ●「話す」力の方が、「書く」力よりずっと強いので、絵で示したことを話す機会をつくらせよう。 ●母語で読み書きの指導を受けておらず、自分の名前も簡単な単語も書けない場合は、日本語の文字の習得にも、より時間がかかることを考慮して、指導計画を作成する。		4 教科につながる基礎的な学習 a 基本の構成(部首・音節・単語・短文)を正確に理解して、学年よりやや低いレベルの漢字を使って書く。 b 興味のある課題に対して、日常語彙を使って作文を書く。 c 書き言葉や教科用語を使って文章を書く。 d 会話文、書き出しやしめくり、簡単な喩えなど表現の工夫をしながら書く。 e 語用はあるが、さまざまな構成の文を使って、意味の通じる文章を書く。 f 意味のまとまりのある段落に分けて文章を書く。 g 書いた文章を読み返し、自分で間違いなどに気づき、ある程度推敲をする。(小学校中・高学年以上の場合)
2 初期指導 (後期)	a いくつかの片仮名や、馴染みのある片仮名の語を書く。 b 平仮名や片仮名で、特殊音節(長音、拗音、撥音、促音)を含む単語を書く。 c 小学校1年で学習する漢字をいくつか書く。(象形文字や指示文字) d 助詞の「は」、「へ」及び「を」を正しく書く。 e 平仮名や片仮名や基礎的な漢字を使い分けて文を書く。 f 毎日の生活に関する事柄について、頻度の高い単語や定型表現、基本文型などを使って、連文(2、3文)を書く。(例: 3～5行程度の生活日記など) g 自分と関係のあるテーマについて、日常よく使われる語彙や慣れ親しんでいる表現を使って、短い文を書く。 a 日常使う漢字表記の語彙(教科名、曜日、標識など)を書く。	○話し言葉をそのまま文字にしようとする。 ●多少地域特有の言い回しが混じっても、容認する。 ●生活日記などを通して、「です・ます」の文章に慣れさせる。		5 教科につながる学習 a 参考資料や辞書を使い、資料を収集して文章を書く。 b 内容に見合った語彙や表現や文体を使って作文を書く。 c 話し言葉と書き言葉の違いを意識して、学年相応に近い漢字や漢熟語を使って作文を書く。 d 敬体と常体の違いに留意して、統一のとれた文体で文章を書く。 e 内容を複段落にまとめ、段落間のつながりに留意して書く。(例: 接続表現) f 複雑な文構成(複文など)で文章を書く。 g 書いた文章を読み返し、自分で間違いなどに気づき、ある程度推敲をする。(小学校中・高学年以上を想定している)

これらができるように日々取組中

「目標項目」(一部) 学年(学級)ごとの実態を把握・共有

(▶ 11 : 50)

青島日本人学校

日本語指導記録を毎時間保存

② 児童
B 個別の指導記録

日本語指導記録

月 日 校時

● 記入のポイント
指導した言葉や先行学習で取った教科書のページなどを簡潔にまとめる。

● 記入のポイント
体験的な学習、ICT機器の活用など、具体的な指導方法を記入する。

学習目標・学習項目

学習活動

● 記入のポイント
児童生徒の成長や、課題をメモしておく。本日の指導の参考にし、メモしたことは、在籍学級の担任にも伝える。

(▶ 18 : 17)

B 個別の指導記録

② 児童生徒の実態把握と評価・成長の記録
B 個別の指導記録

- 学習活動や指導した内容を日本語指導担当者が記録し、保存していくことで、継続して指導する効果を上げる。
- 在籍学級担任や教科担当と連絡を密に取り、先行学習や補充学習の内容を決定する。
- 指導記録は、個人ごとにファイルに保存し、次年度以降も内容を確認しながら、継続的に指導が行えるようにする。

(▶ 17 : 38)

C アンケート

全児童生徒を対象にしたアンケートの実施

② 児童生徒の実態把握と評価・成長の記録
C アンケート

- 日本語指導が必要な児童生徒だけでなく、全員に実施することで、日本語指導の基盤としての支援的な土壌ができていくかを把握する。
- 児童生徒の自己肯定感や学級への所属意識を把握する。
- 生活面や学習面での日本語に対する困り感を把握する。

(▶ 18 : 34)

3 効果的な日本語指導の方法

マニラ日本人学校

B 日本語と教科の統合学習

B 日本語学級での先行学習



(▶ 7 : 24)

B 日本語と教科の統合学習

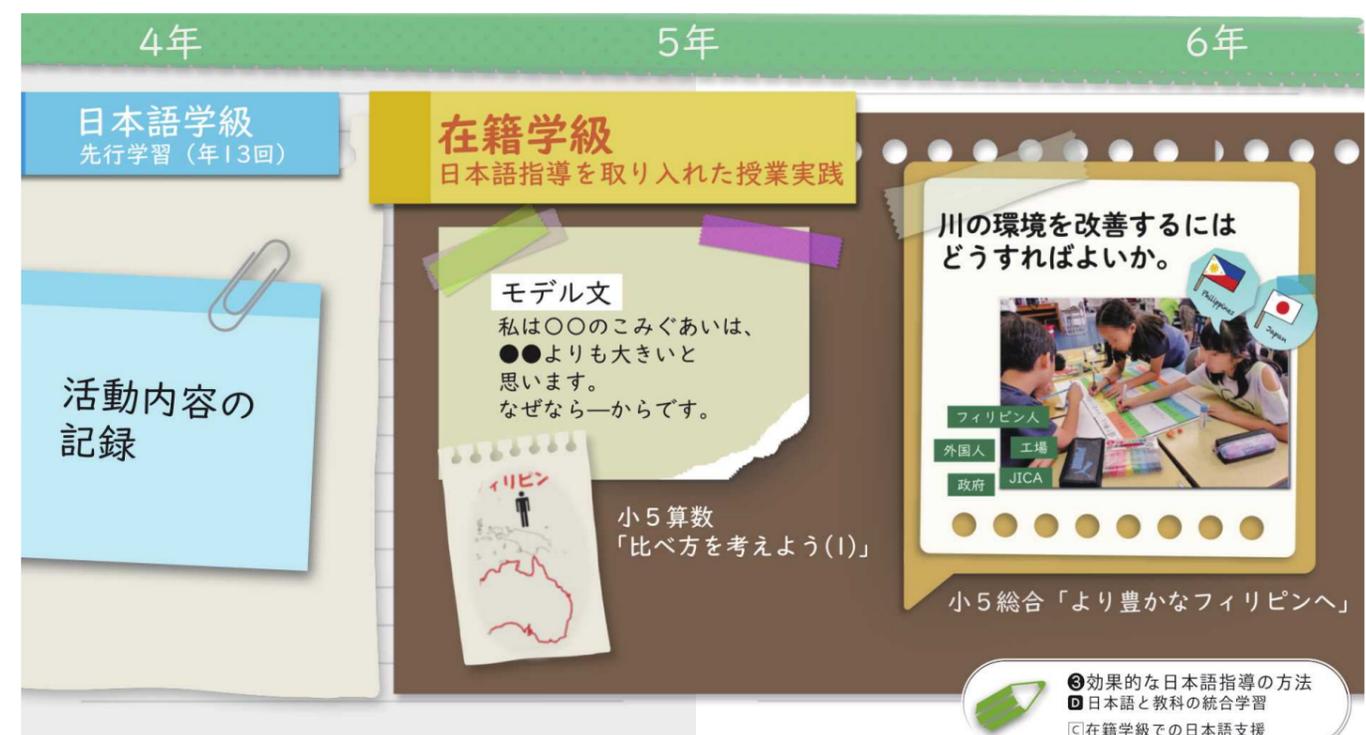
C 在籍学級での日本語支援



(▶ 8 : 19)



(▶ 8 : 53)



(▶ 9 : 11)

大連日本人学校

B 日本語と教科の統合学習



(▶ 13 : 14)

C バイカルチャーの視点を取り入れた授業

バイカルチャーの資質を育成する実践

中学部3学年 社会科
「日中の相違点・共通点を探る」

伝統文化・宗教の課題への対策

日本	共通点	中国
・文化財保護法		・無形文化財の保護
・多文化共生まちづくり		・多文化共生社会
・伝統工芸品の絵本	若い世代への アピール	
・アニメや映画の題材		

伝統文化・宗教の問題

	日本	中国
<伝統文化>	・伝統文化の衰退 …社会の変化 後継者不足	・伝統芸能の衰退 …社会の変化 文化の画一化
<宗教>	・宗教への偏見	・宗教の中国化
共通点		
相違点		



- 効果的な日本語指導の方法
- バイカルチャーの視点を取り入れた授業
- 差異や共通点から思考を深める

小学部1学年 国語科

単元名「くらべてよもう」
教材名「じどう車くらべ」

- 国語科の目標
 - 『しごと』と『つくり』を捉えて書く
 - はしご車の『つくり』を付箋に書き、友達と相違点や共通点について話し合うことで、自分とは違う見方や視点に気づく
 - 「わたしも同じです。」の「～も」を学び、活用する。
 - 読み取りを深め、学んだ語彙を実際に活かす効果（より確かな定着）



(▶ 14 : 28)

青島日本人学校

B 日本語と教科の統合学習

実践例 ③-B

日本語と教科の統合学習
△日本語学級と在籍学級との連携

小学部2年 国語
馬のおもちゃの作り方/
おもちゃの作り方を説明しよう

日本語学級
事前に教科書に載っている説明文を読みながら、おもちゃの作り方を確かめた。実際に体験することで、教科書に書かれている説明文の工夫を見つけることができた。

作り方を教え合っている様子

接続詞を使い、作り方の手順を確認している様子

効果的な日本語指導の方法
日本語と教科の統合学習
日本語学級と在籍学級との連携

(▶ 21 : 43)

C バイカルチャーの視点を取り入れた授業

③-C バイカルチャーの視点を取り入れた授業

- 児童生徒のルーツのある国からきっかけを作る
- 差異や共通点から思考を深める
- 他校との交流
 - 同年代の児童生徒との交流
 - キャリア教育の一環としてのオンライン企業訪問
 - 進路指導の一環として、卒業生との交流

中国語の本を二人で翻訳している様子

第3次 オンライン交流会

韓国語で書かれた絵本を見せ紹介している様子

(▶ 19 : 27)

(▶ 19 : 55)

(▶ 19 : 55)



Q1 このプログラムをどのように活用したら良いでしょうか。

A 本プログラムでは、

- ① 学校体制作り
- ② 成長の記録による実態把握・評価（継続性を担保する上で重要）
- ③ 効果的な指導プログラム

の3つの柱を立てました。

この3つをベースに各日本人学校でも取り組んでいくことが可能です。このリーフレットに示した例は、実践例の一部です。詳細については、AG5 WEB サイトに掲載されている資料を参考にしてください。そして、実践例をヒントにして各校の特色に合った実践に取り組んでいかれることを期待しています。

Q2 参考となる資料や情報はどこを閲覧すれば良いですか。

A AG5 WEB サイトには、マニラ、大連、青島の日本人学校の実践例詳細が掲載されています。ワークシートや指導記録等もあります。

マニラ日本人学校

- 『日本語学級・在籍学級での教科横断的な日本語指導～マニラ日本人学校の対面・オンライン授業の実践から～』（マニラ日本人学校での2020年度の取り組みの成果）
https://ag-5.jp/cms/ag5/common/pdf/theme2/Manila_book_2020.pdf
- 「ロックダウン開始から現在までのMJSの取り組み」（オンライン授業で活用したICTについて）
<https://ag-5.jp/cms/ag5/common/pdf/manilapanel.pdf>
- 小学部第1学年 日本語学級活動案「これはなんでしょう」
https://ag-5.jp/cms/ag5/common/pdf/theme2/manila_G1.pdf
- 小学部第5学年 総合的な学習の時間 学習指導案「より豊かなフィリピンへ」
https://ag-5.jp/cms/ag5/common/pdf/theme2/manila_G5.pdf
- 「マニラ日本人学校今年度の取り組み」（小学部第5学年算数科「比べ方を考えよう（1）」の概要、オンラインで活用したICTについて等）
<https://ag-5.jp/cms/ag5/common/pdf/manikatorikumi.pdf>

大連日本人学校

- 『「文部科学省日本語指導が必要な児童生徒を対象とした指導の在り方に関する検討会議」作成の参考資料』の一部（大連日本人学校の「目標項目（一部）」）
https://ag-5.jp/cms/ag5/common/pdf/theme2/dairen2020_siryo1.pdf
- 『「文部科学省日本語指導が必要な児童生徒を対象とした指導の在り方に関する検討会議」作成の参考資料「学習目標例」』
<https://data.casta-net.mext.go.jp/kyouzai/mext/shidou/mokuhyou-rei-syoki.pdf>
- 小学部第1学年 国語科指導案「じどう車くらべ」
http://ag-5.jp/cms/ag5/common/pdf/theme2/dairen2019_Japanese_for_1stgrade.pdf
- 大連日本人学校の2020年度の取り組み報告資料（中学部3学年 社会科「日中の相違点・共通点を探る」の概要等）
<https://ag-5.jp/cms/ag5/common/pdf/theme2/dairen2020.pdf>

青島日本人学校

- 『多文化共生の学校づくり～青島日本人学校の実践～』（青島日本人学校での2020年度の取り組みの成果）
https://www.ag-5.jp/cms/ag5/common/pdf/theme2/Qintao_book_2020.pdf
- 青島日本人学校・中学部の日本語取り出し指導について（日本語指導記録の例）
https://ag-5.jp/cms/ag5/common/pdf/theme2/Qintao_chuugakubu_2020.pdf
- 「青島日本人学校の取組（実践発表）」（小学部2学年 国語科「馬のおもちゃの作り方／おもちゃの作り方をせつめいしよう」の概要等）
<https://ag-5.jp/cms/ag5/common/pdf/chintaotorikumi.pdf>

この他、AG5 WEB サイトには、日本語力が異なる子どもたちが楽しく学ぶための補習授業校の「学習活動アイデア集」や「学習活動計画集」などもありますので、ご参考になさってください。

Q3 「日本語と教科の統合学習」など日本語指導についてさらに学ぶにはどうしたら良いですか。

A 文部科学省のポータルサイト「かすたねっと」を活用されると良いでしょう。

教員のための研修動画や「外国人児童生徒受入れの手引き改定版」、「DLA」などをはじめ各種日本語指導教材・ワークシート等が紹介されています。また「かすたねっと」には保護者への翻訳文書等も多々ありますので、様々な面で役立つ情報が得られます。